



..... 最上支部要請活動



【R3.11.5】新庄最上選出県議会議員の案内で、県農林水産部長に令和4年度最上地域農業農村整備事業の予算確保について要請を行いました。

..... 最上支部現地研修会



【R3.11.4】最上町内でリーフレタス、シャインマスカットなどに取組む意欲的な若者たちに大いに触発され農地整備の重要性を改めて認識したところです。

..... 女性の会最北地区研修会



【R3.9.7】進藤かねひこ議員（リモート参加）、新庄土地改良区総代 小野さんを招き、農業への女性参画の可能性・課題等について活発な意見交換が行われました。

..... 令和3年度支部役員会【R4.2.4】及び支部総会（書面決議）

役員会を開催し、今年度総会は感染状況を踏まえ書面議決に切替えることや、役職員研修会の新年度への繰り延べなどを了承しました。

また、来年度からの水田交付金見直しについても活発な意見交換が行われました。

総会書面議決の結果につきましては、全会員から全議案ともご賛同をいただきました。



..... 進藤かねひこ参議院議員国政報告会【R4.2.21】



進藤かねひこ参議院議員が県内各地を訪問し、農業農村整備をとりまく情勢について講演を行いました。最上支部においては、土地改良区関係者など約50名が参加し最新の情報を

学びました。農業農村整備予算の確保には、土地改良の代表を国政の場に送ることがいかに重要であるかを再認識したところです。今後とも皆様のご支援をお願いいたします。

～ 最上支部現地研修会 in 最上町 ～

最上支部では若手職員を中心に、ほ場整備後の各地区の取り組み事例を学ぶために研修会を行いました

若宮地区野菜ソムリエが手掛けるリーフレタス！

若宮地区でリーフレタスの栽培を行っている中畠さんにお話を伺いました。ハウス3棟でリーフレタス他4種類の栽培を行っており、年間約10万袋（1袋60～70g）を出荷しているそうです。ここにいたるまで、出荷先の拡大をするため、野菜ソムリエの資格を取得し、JAもがみ中央の他、スーパーや飲食店にも出荷しているそうです。



また、現在の水耕栽培方法は宮城県で指導を受け、植えの時期をずらして栽培することで、長期的に安定して収穫ができます。

栽培用水は地下水を使用していますが、水温が30℃以上になると根腐れをおこしやすくなり、夏場のハウス内環境での水温管理が大変だとおっしゃっていました。

オススメの食べ方はしゃぶしゃぶと一緒に！



若宮地区ブランドのニラ「達者 de 菜(たっしゃでな)」

若宮地区2ヶ所目は1.2haのニラ畑を家族4人で営農している下山さんとJAの担当者にお話を伺いました。

営農実績40年の下山さんは、年間12～20トンほど出荷し、中でも地区ブランドの「達者 de 菜」に力を入れているそうです。

ニラは年間最大5回の収穫ができるのですが、刈取る回数が多いと品質が落ちるのが難点です。

そこで、品質を維持するため刈取りを3回に留めて出荷しているそうです。

現在30名のニラ耕作者がおり、平均年齢は60代ですが40代も多くいるそうです。若手農家が多い理由としては、他の路地野菜（きゅうり、ナス等）に比べ、自分の都合に合わせて営農ができるため、耕作者が増えているとのこと。

将来の若手農家に期待大です！



アスパラガスとシャインマスカットの二刀流耕作

志茂地区ではアスパラガスとぶどうを栽培している高橋さんにお話を伺いました。

今回視察したほ場は最上町で初期にアスパラガスを定植したところで、父親がアスパラガスを広めた人の一人だったそうです。年間9トンを出荷していますが、今年は霜被害で収量などに影響が出たということです。

以前は水稻栽培もしていましたが、ブドウ栽培をしたかったため、アスパラガスとブドウに集中

して営農を行っているということです。

ブドウは4種類栽培しており、半分がシャインマスカットだそうです。毎年土壌分析を行っている他、葉に当たる日照時間が多いほど糖度が上がるため、主枝に15cm間隔で一房ならしているそうです。雪や害獣対策も必須で、管理を徹底すれば10～15年は収穫可能だそうです。

今後はブドウ栽培を最上町に広め、ワインにも取組んでみたいと意気込みを語っていました。



沢原地区中山間地域ほ場整備事業

最後に視察したのが令和6年度着工予定の農地中間管理機構関連農地整備事業の沢原地区です。地区面積は9.1haで、13戸の関係農家がありますが、事業後は2～3戸に集約することで調整を進めているそうです。

この地区は未整備水田のため、用水路、農道の維持管理も大変で、現在のままでは借受者がいないため整備要望の声があがったようです。

ほ場整備をきっかけに営農面積の拡大、高収益作物(アスパラガス、ネギ、ニラ)の導入により、新規就農者、後継者が増えることを期待しています。



～ほ場整備地区取組み事例 大蔵村赤松通り地区～

赤松通り地区では、耕作者の高齢化に伴う農地保全の問題及びほ場の作業効率等の観点から、ほ場整備を望む声が高まり、平成 24 年度に事業が採択されました。事業は今年度で完了の予定です。

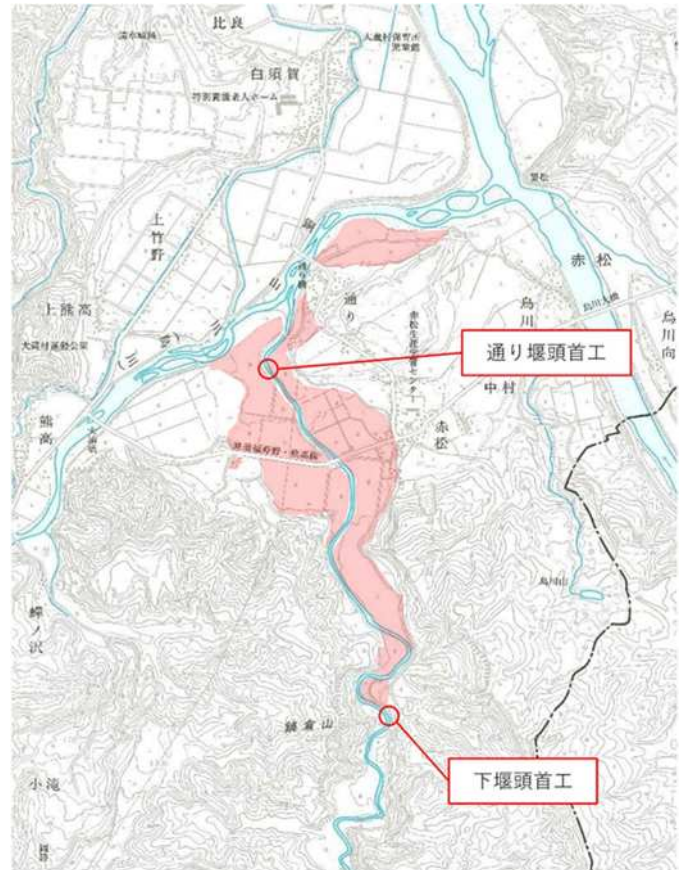
当地区では高収益作物としてトマトを中心に作付を行っており、トマト栽培用のハウスも一箇所にまとめられるよう計画を進めて来しました。

事業を通して地区面積 65ha のうち、39ha を地元の法人である「農事組合法人このこのファーム」、「農事組合法人グリーンライスファーム」及び個人の担い手へ集積する計画です。

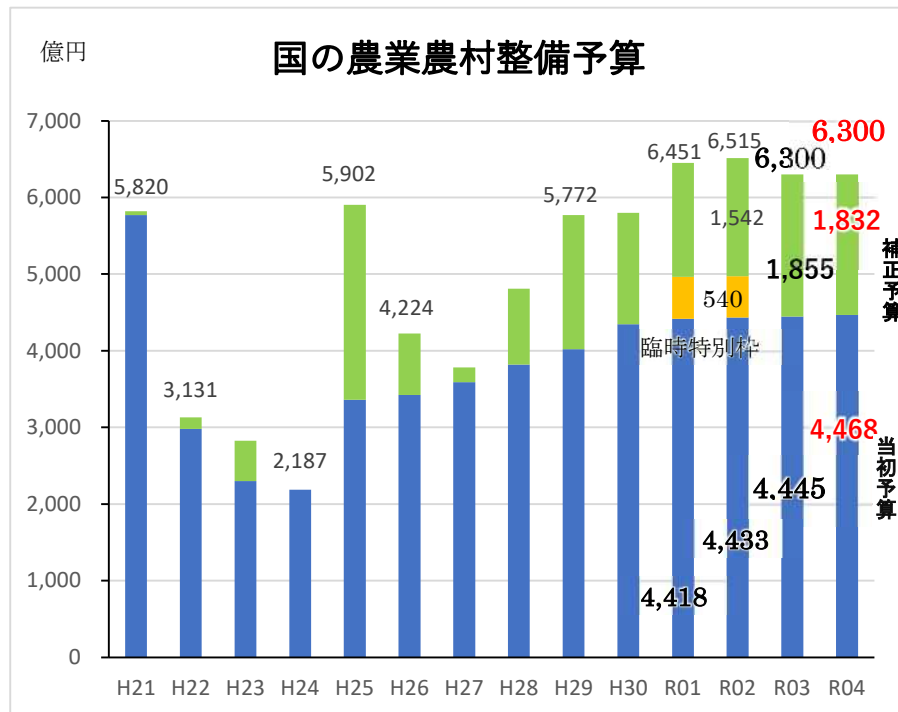
主要工事：区画整理工 A= 64.6 [ha]
 整地工 A= 64.6 [ha]
 道路工 L= 8.40 [km]
 用水路工 L= 10.93 [km]
 排水路工 L= 10.95 [km]

負担割合

国	県	市町村	地元
55%	27.5%	10%	7.5%



…………… 令和4年度国の土地改良予算は前年と同額が確保されそうです ……………



R4 年度国の土地改良予算(国会審議中)には、R3 補正と合わせて 6,300 億円が計上されています。民主党政権下で 6 割削減されましたが、補正と当初を合わせれば削減以前の水準に回復はしましたが、当初予算の回復に向けて、皆さんの切実な声を更に強く国政の場に届ける必要があります。

また、県の R4 年度耕地公共予算には、約 200 億円 (R3 補正含 県議会審議中) が計上されています。ここ 5 年ほどはほぼ同水準で経過しており、必要額は確保できる見通しです。最上地域のほ場整備も引き続き順調に進みそうです。

【編集者ひと言】

最上町のほ場整備実施地区を視察し、各地区の活性化に新しい事業や高収益作物の栽培している姿を拝見して、その土地特有の活用法を生かした地域づくりを展開していることに感心させられました。これを機に自身の地区で新たな高収益作物の導入を考え、地域の発展につなげていければと感じました。

編集後記：新庄土地改良区：高山 戸沢村土地改良区：矢口